

恵みと真理のニュース



2019 年 12 月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

感謝と喜びで主と共に同行しながら天国に向かうようにしてください。神様の恵みに感謝を捧げます。

わたしは村の人々が儒教の慣習と巫属信仰を従うアンソン権苗字の親族が集まって住む田舎で6人兄弟の中で末子で生まれ育ちました。祖父、父、兄3代が農業しました。母が49歳で亡くなり父が再婚しました。祖母と新しい母が心を尽くして私たちを育てくれましたが、生活が良くなり生活が苦しかったので親がよくケンカをしていつも不安でした。

高校卒業してからすぐソウルに行って就職をして一番上の姉が住む場所の隣で部屋を借りて一人暮らしをはじめました。姉が近くにいて助けと頼りになりました。教会に通う姉はいつも幸せに見えました。私と違って人々に暖かくて親切でした。教会に行くなら私も男性的で不愛想な性格が姉のようにやさしい生活で変えることができるか姉について教会に通い始めました。青年部の礼拝と集まりの行事に参加して楽しく教会に通いました。

しかし、2年後、親しい友達が一緒に暮らそうと誘ったので友達が住む家に移して共に生活するようになって教会生活を疎かにしました。教会から遠く離れて職場でも遠い所でした。職場が大変で辞めて新しい職場を探しましたがなかなか難しかったです。そうしながら友達との仲も葛藤が起こりました。そうする中で慰められたくてアンサンに住む姉に会いによく行ったがアンサンで部屋を探して一つの中小企業に就職しました。マンションを借りたですが、家主が恵みと真理教会に通う執事でした。その執事は毎週福音ニュースを渡して熱心に私を伝道しました。その当時にはマンションも二つの部屋の中で一つの部屋は貸す家が多かった時代でした。執事が私にとっても親切にしてくださいましたが、生活が不便だったので他の所で妹と共に住

みながら執事が約束した通り恵みと真理教会に通い始めました。アンヤン聖殿に行って一番前に座って党会長の牧師の顔を見ながら礼拝を捧げました。牧師の説教を聞いて聖書を習いながら礼拝が楽しくて信仰生活が幸せになりました。

教区バスで聖徒達と共に楽しく賛美する中で多くの恵みを受けて聖歌隊で奉仕をしました。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。（マタイの福音書6：33）職場でもよい待遇を受けてやりがいも感じながら働きました。平日の礼拝も熱心に捧げて伝道にも力を尽くしました。区域長達をうらやましいながら教師として奉仕しました。私が教会で習って確信して聖徒らしく生きようと力を尽くすと姉の夫婦が感動を受けイエス様を信じて願っていた尊い息子を産みました。すべての家族が大喜びしました。

三十歳に紹介されて二か月ぶりに結婚しました。後で調べたらソウルの大きい教会に通う舅姑の知り合いがわたしを知ってから紹介してくれたのを知りました。結婚した後、児童区域長を任命されました。熱心に子供達を仕えたら区域がリバイバルをして私も恵みで充満な生活の中で子供二人を産んで育てました。普段は言葉数が少なくて小言を嫌がる旦那の性格で大変でしたが、教会で礼拝して区域長と話をしたら慰められ力になりました。安定的ではない旦那の職業、性格の差、実家と婚家の差などでうつ病になり、生きる意欲を失った時、勇気を出して当会長の牧師に祈りを受けました。その後、神様の恵みで賃貸住宅に当選され入居するようになりました。そして、牧師から勧められて夫の変化のため祈って夫に祝福をする話を良くして親からもっと親孝行しながら心も楽になり、うつ病もなくなりました。長女が小学生に入学して学校の先生に褒められ教会に熱心に通い私を喜ばせてくれました。私の子供達と村の子供たちを集めて聖書の話を聞かせて振り付けもして賛美を教えるのがとても楽しくてやりがいを感じました。教会で子供達を養育して神様に多く献身したい願いが来て一人でいる時間は食堂で働きました。熱心に貯金生活もして節約してお金を集

めました。交通費を節約するため30分を歩いて出勤して通勤しながら十分の一献金を捧げることもおろそかにしなかったです。時間をよく配分して活用しながらすべての礼拝に休まなく熱心に礼拝を捧げるように力を尽くしました。世俗的なことに距離を置いて世の友達とも離れて主日に集まる実家の行事にも休むしかなかったです。しかし、区域聖徒達と共に分かち合い教会で礼拝を捧げ奉仕する楽しさに比較することが出来ませんでした。“世の人々が私をうらやましがって、私は世の人々がうらやましくない。” 自然に賛美を歌いました。母が年取って病弱になり脳梗塞になり病院で生活をするようになって心の苦勞がありました。教区の聖徒達が祈ってください、また一週間に一回病院に行って祈って賛美し礼拝を捧げながら心が楽になりました。3年間療養院で生活された母が天国に召されあつた後、私の人生のむさしさを切実に感じて12年間働いた仕事を辞めてイエス様を仕えることに心を尽くしました。親が残ってくださったお金で銀行から借りた金を返して、私の家が出来るため祈りました。今まで貯蓄したお金は家を買うためには足りなかったのですが神様が助けてくださって最後に夢が叶えました。24年ぶりに家を買って、私の居間で区域礼拝を捧げて祈りをする事が出来て言葉で表現できないほどうれしくて感謝でした。うつ病を患って一時期神様の懐を離れていた一番上の姉も私の助けて恵みと真理教会に通い礼拝を捧げながら信仰と健康が回復され私の心がもっと嬉しくて神様に感謝するようになりました。私が区域長20年勤続賞を受けて首区域長と聖歌隊長として神霊なやりがいを感じ相変わらず楽しく献身するように豊かな恵みを与えてくださった神様の恵みに感謝捧げます。私は毎日3回時間を決めて国のため教会のため、また、様々な心の願いが叶えるため神様に祈りをしながら聖書の御言葉を黙想しています。私が健康で熱心に主の事をして家族のみんなが聖書的な価値観を持って神様をよろこばせる生活をするように祈りながら、神様にすべての栄光を捧げます。



【信仰コラム】

神様の責めを受けたモーセ

“... ああ、主よ、どうか、ほかの適当な人をおつかわしてください”。

そこで、主はモーセにむかって怒りを発して... “（出エジプト記 4:12~17）

責められるのが愉快なことではないが、責められるのが全て悪いものではありません。イスラエルの偉大な領導者モーセが何のことで神様の責めを受けて、その責めをいかに受け入れたかを調べてみます。

第一は、モーセがホレブの山でイスラエルの領導者として使命を受ける時、神様に責められたことがあります。モーセが神様に“わたしは、いったい何者でしょう。わたしがパロのところへ行って、イスラエルの人々をエジプトから導き出すのでしょうか”としました。神様が“わたしは必ずあなたと共にいる...”と言われました。モーセは“彼らはわたしを信ぜず、またわたしの声に聞き従わないで言うでしょう、『主はあなたに現れなかった』”としました。神様はモーセの杖が蛇になって再び杖になり、モーセの手にらひ病が発して瞬間的に回復される奇跡を見せてくださいました。なのにもモーセは“ああ主よ、わたしは以前にも、またあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。”としました。神様がモーセを責められる話し方で“それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう”と言われました。それにもモーセが“ああ、主よ、どうか、ほかの適当な人をおつかわしてください”とするので今回には神様が怒り発して言われました。“あなたの兄弟レビびとアロンがいるで

はないか。わたしは彼が言葉にすぐれているのを知っている。見よ、彼はあなたに会おうとして出てきている。彼はあなたを見て心に喜ぶであろう。あなたは彼に語って言葉をその口に授けなさい。わたしはあなたの口と共にあり、彼の口と共にあって、あなたがたのなすべきことを教え”。モーセはこの時に受けた責めを教訓に扱ってこのような態度を直し、“私はできません”という言葉を手放しました。第二は、モーセが紅海の前で進退両難に処された時に神様の責めを受けたことがあります。パロが特別な戦車 600 台と馬兵と歩兵を連れて追撃してくると、イスラエル子孫は恐れてモーセを恨みました。モーセは恐れに捕われて叫ぶイスラエル子孫と疾風怒濤のように走ってくるエジプトの戦車と馬兵を見ながら神様に叫んでお祈りしました。その時、神様がモーセに“あなたは、なぜわたしにむかって叫ぶのか。イスラエルの人々に語って彼らを進み行かせなさい。あなたはつえを上げ、手を海の上にさし伸べてそれを分け、イスラエルの人々に海の中のかわいた地を行かせなさい。”と言われました。モーセは神様の責めを聞いてお祈りだけするのではなく自分ができるまで行動すべきであることを悟り、直ちに実行しました。人が神様に頼って行動する時に到達する限界点は全能な神様が伸ばされる助けの手に当たる接点になるということを悟ったのです。

第三は、モーセが晩年にカデシで神様の責めを受けたことがあります。イスラエル子孫がカデシ・バルネアに到達して水がなくて困難を経験するとモーセとアロンを誹謗しました。神様がモーセに“あなたは、つえをとり、あなたの兄弟アロンと共に会衆を集め、その目の前で岩に命じて

水を出させなさい。こうしてあなたは彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませなさい”と指示なさいました。しかしモーセは会衆に“そむく人たちよ、聞きなさい。われわれがあなたがたのためにこの岩から水を出さなければならないのであろうか”として、自分の手を挙げて杖で岩を2回打ちました。岩に向いて命令することと岩を杖で打つのは全く異なる行動です。神様がモーセとアロンに責められながら“あなたがたはわたしを信じないで、イスラエルの人々の前にわたしの聖なることを現さなかったから、この会衆をわたしが彼らに与えた地に導き入れることができないであろう”と言われました。この懲罰に対する預言は、カナン進入の以前にアロンがホル山で死に、モーセがモアブの地ビスガ山で死ぬことで成就されました。神様の聖なることすなわち、神様の栄光を塞ぐ行為は重大な犯罪です。私達の不信仰と不順従で神様が表わせようとする栄光を塞ぐことがないようにすべきです。皆さんは、このようなモーセの態度を見習い、彼が責められたことによって得た教訓を皆さんのことに扱ってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

金持ちという言葉は、経済的な価値に限定されて使用されるだけではありません。何でも多く所有していることを指す意味があります。息子の金持ち、娘の金持ちという言葉も一般的に使用します。出産を忌避するこの世では、息子の金持ちや娘の金持ちが珍しくないが、望んでいるだけでなるのありません。財物をたくさん持って金持ちになることも望むことでもありません。ところが、財物よりも価値のあるものがあります。それは誰も努力すれば制限なく持つことができます。人生を真に金持ちになることです。自分と他の人の両方を益を得になることです。今日はこのような金持ちになって恵まれることについて見てみます。

第一は、信仰の金持ちです。

人が所有しているものの中に金銭で換算することができるものとできないものがあります。人々は金銭に換算することができるものをもっと多くを所有しようと努めて手間をします。しかし、人の生活の中には、金銭的に換算できないもので、その価値を無視することができないものがあります。肉体と精神の健康です。健康を失った場合、すべてを失ってしまうという言葉があります。このすべての上に、さらに重要な価値を持つものがあります。それは信仰です。信仰は、一般的な信仰と神霊な信仰があります。一般的な信仰とはすべての人が日常生活を営むために必要な信仰です。すべての人が日常生活を営むために必要な信仰です。農夫が畑を耕し種をまくのは、その種が芽生え育つ収穫を得るのを信じているからです。私たちが食べて飲んで眠って働くすべての生活の中で、これらの信念は不可欠です。私たちは、一般的な信念と一緒に霊的な信仰が必要です。霊的な信仰は聖書で言う信仰です。神の信仰であり、また神の言葉に基づく信仰です。聖書は、霊的な信仰の価値とその重要性について徹底的に教え導いてくれます。信仰という言葉は抜いては、聖書を正しく読み取ることができず、理解できません。新約聖書の福音書は、イエスが信仰について教えて行った記事で点綴されています。イエスは癒されるために来た人に、「あなたは私が十分にこの事をするのを信じるのか」と尋ねました。そして「あなたの信仰のとおりになりなさい。」としました。イエスは、信仰のある人を賞賛しました。「女よ、あなたの信仰は 見あげたものである。 あなたの 願いどおりになるように 」（マタイによる福音書 15:28）イエスは信仰が足りない人を叱りました。「信仰の 薄い 者よ、なぜ 疑ったのか 」（マタイによる福音書 14:31）。イエスは、信仰の言葉をして、信仰の祈りをするように教えました。「祈のとき、 信じて 求めるものは、 みな 与えられるであろう 」（マタイによる福音書 21:22）。

これらの金持ちになりましょう

このように、聖書は、人が神と神の言葉への信仰を持つことの必要性和重要性を明らかにしています。しかし、私たちが注意しなければならないことは、信仰の対象と根拠が間違っている場合、その信仰は人生を不幸と破滅に導くという事実です。すべての人が信じる対象は創造主であり、イエス・キリストによって、罪人を救われる神です。また、私たちの信仰の根拠は、聖書に啓示された神の品性そして神の命令と約束です。したがって、聖書は、私たちの信仰を根植えし育て実を結ぶ土壌です。聖書には、私たちの信仰の状態について「小さい信仰、大きな信仰、弱い信仰、頑丈な信仰、不足している信仰、全き信仰、行ないのない信仰、行ないの信仰など」で形容しています。信仰の対象と信仰の根拠を正しく知ったあなたは、大きな信仰、頑丈な信仰、全き信仰、行ないの信仰を金持ちに付いている「信仰の金持ち」になりますように願います。

第二には、所望の金持ちです。

クリスチャンと非クリスチャンの生活における著しく異なる点の一つは、素望があるかないことです。聖徒たちが持つ望みの対象と根拠は全知全能であるどこでもおられる永遠で善良で悲しみでおられる真実の神です。聖徒たちが持つ望みは、神が行なわれた仕事と約束なされた言葉に基づいています。神様が与えられる望みはイエス・キリストによるのであり、イエス・キリストの中にある素望です。イエス・キリストがこの世に来られて贖いの死を死にました。死んで後の三日目によみがえられ、天に昇りご神の御座のに座りました。これにより、聖徒たちは言葉で形容できない多くの素望を持つことができるようになりました。1) 義の素望があります。使徒パウロは、テモテへの手紙するのを「わたしは、すでに 自身を 犠牲としてささげている。 わたしが 世を 去るべき 時はきた。 わたしは 戦いをりっぱに 戦いぬき、 走るべき 行程を 走りつくし、 信仰を 守りとおした。 今や、 義の冠がわたしを 待っているばかりである。 かの 日には、 公平な 審判者である 主が、 それを 授けて 下さるであろう。 わたしばかりではなく、 主の 出現を 心から 待ち 望んでいたすべての 人にも 授けて 下さるであろう 」（テモテへの第二の手紙 4:6~8）しました。2) 復活の素望があります。「兄弟たちよ 眠っている 人々については、 無知でいてもらいたくない。 望みを 持たない 外の 人々のように、 あなたがたが 悲しむことのないためである 」（テサロニケ人への第一の手紙 4:13）しました。「ここで、 あなたがたに 奥義を 告げよう。 わたしたちすべては、 眠り 続けるのではない。 終りの ラッパ の 響きと 共に、 またたく 間に、 一瞬にして 変えられる。 というのは、 ラッパ が 響いて、 死人は 朽ちない 者によみがえられ、 わたしたちは 変えられるのである 」（コリント人への第一の手紙 15:51,52）しました。3) 永遠の命の素望と併せて相続者になる素望があります。「これは、 わたしたちが、 キリスト の 恵みによって 義とされ、 永遠のいのちを 望むことによって、 御国をつぐ 者となるためである 」（テトスへの手紙 3:7）しました。4) 天国の栄光のうちに住む望みがあります。

「わたしはまた、 新しい 天と 新しい 地とを見た。 先の 天と 地とは 消え 去り、 海もなくなってしまう。 また、 聖なる 都、 新しい エルサレム が、 夫のために 着飾った 花嫁のように 用意をととのえて、 神のもとを 出て、 天から 下って 来るのを見た 」（ヨハネの黙示録 21:1,2）しました。5) 主の賞賛と報いの素望があります。「見よ、 わたしはすぐに 来る。 報いを 携えてきて、 それぞれのしわざに 応じて 報いよう 」（ヨハネの黙示録 22:12）しました。6) すべてが働かせて益となる素望があります。神様が私たちに時に応じて恵みをいただいて、すべてのことが働かせて益になってくださったと聖書に約束されています。あなたはイエス・キリストにあって「義の素望、復活の素望、永遠の命の素望、相続者なる素望、天国の望み、主の賞賛と報いの素望、すべてが働かせて益をなる素望」を享受して満喫する「素望の金持ち」になるよう願います。

第三には、感謝の金持ちです。

感謝の理由を収集し、感謝することを楽しんで習慣は比べできない、趣味であり、非常に意味のある尊い価値を生産します。1) 神に感謝することは、神を栄光になって見せかけます。詩篇 50 篇 23 節には「感謝のいけにえをささげる 者はわたしをあがめる。 自分のおこないを 悔む 者にはわたしは 神の救を 示す」としました。すべてのことを神に感謝することは聖徒の本分を行うものでありまた神を敬うことです。2) 神に感謝することは、神の助けてくださる手を体験するようになります。積極的に神に感謝してください。そうすれば、あなたの体と心が癒されます。神への感謝の祈りと感謝賛美は、神の力を体験するようになります。パウロとシルアノはフィリピで福音を伝えるので告発してひどく枚を打った後投獄されました。そんな状態でも、パウロとシルアノは夜中にその監獄に閉じ込められ、他の囚人たちも聞くように祈り、賛美をしました。すると神は力の手を伸ばして、地震を起こし刑務所のドアが開けられました。これにより、パウロとシルアノは自由の身となり、ピリピ刑務所の看守とその家族が皆、イエスを受け入れました。3) 神に感謝することは雰囲気明るくして不平不満する人の心を変化させます。イスラエルの民の中にいた雑族が不平不満の雰囲気を造成したので、イスラエルの民が感染して、神に向かって不平不満しました。神様が与えられる日々の糧であるマンナは彼らが神に感激の涙を流しながら感謝するべきでありがたい通りなのに、 雑族の不満に伝染されてかえって泣いて不平するものに作りました。あなたは聖徒らしく感謝する言動で雰囲気を明るくすることに努力しなければなりません。4) 神に感謝すると、サタンが乗じません。もしエバが善悪を知る木の実を食べてはいけないという神の制限について感謝する心を持ってあれば、サタンの策略に乗らないのです。サタンは恨み不平の門に入ります。しかし、感謝の門では浸透しません。

皆さんは、感謝の理由を見つけ出してリストを作りなさい。日々蓄積される感謝のことによって「感謝の金持ち」になりますように、神はある者に、もっとくださいます。信仰、素望、感謝の金持ちに信仰と素望と感謝をさらにたくさんくださいます。聖徒の皆さんは、「私はキリスト・イエスにあって信仰と素望と感謝の金持ちです。」という金持ちの意識を持って生きて行かれるのを願っております。